



★当地で通称ミズダコと呼ばれる標準和名ヤナギダコ、このサイズで3キロ級

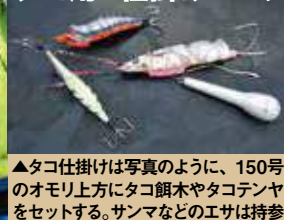


◎タコは周りの人と協力してギヤフで取り込もう



▲タコが乗ると重量は相当なもの。手持ちでロッドキーパーに竿を当てながらウネりをかわして巻き上げる人が多かった
◀タコの釣果は1.5〜3キロ級がトップ3杯
▶アカムツとタコ両狙いの仕掛けで、アカムツ4尾とタコ1杯を釣った番場さん

タコ用の仕掛けとエサ



▲タコ仕掛けは写真のように、150号のおもり以上にタコ餌木やタコテンヤをセットする。サンマなどのエサは持参

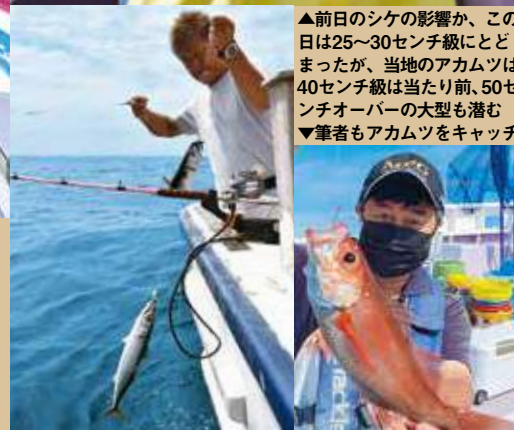


6月の第十五隆栄丸 ベストショット



アカムツ用の仕掛けとエサ

◀アカムツ仕掛けは胴つき2〜3本バリ、オモリ150号
▶アカムツのエサは冷凍ホタルイカなどを持参。ホタルイカは予約時に頼むと有料で用意してくれる(1パック700円)
▶当日はホタルイカを1杯掛けにする人が多かった



▲前日のシケの影響か、この日は25〜30センチ級にとどまったが、当地のアカムツは40センチ級は当たり前、50センチオーバーの大型も潜む
▼筆者もアカムツをキャッチ

▲釣れたサバをさばいた切り身は最高の特工



平潟沖のアカムツ開幕 裏本命はなんとミズダコ!!

茨城県平潟港 撮影◎椎名義徳



◎当地のアカムツは35〜40センチ級がアベレージ。いい日は2ヶタ釣る人もいる。(写真提供：第十五隆栄丸)

さらに特筆すべきはスペシャルゲストの通称ミズダコ(ヤナギダコ)。元もと底引き網漁で水揚げされていたことは知られていたが遊漁で専門に狙うことはなかった。それが昨年、釣り人が船長の許可を得てアカムツ仕掛けのオモリ付近にタコ餌木を付けて下ろすと1〜3キロ級が入れ乗りに。これが評判となり、今シーズンは船長公認となった次第。
アカムツもタコも釣り場は同じで、平潟沖の水深140〜160メートル前後が中心。アカムツもしくはタコを専門に狙うもよし、アカムツ仕掛けの下部にタコ仕掛けを付けて両狙いに興じるもよし、平潟沖のニュースタイルにいざチャレンジ!
(詳細は48ページ参照)



◎茨城県平潟港・第十五隆栄丸 鈴木 和次船長

人気ターゲットのアカムツ乗合が茨城県北部で開幕した。取材した平潟港の第十五隆栄丸では、例年より1カ月ほど早く6月上旬からスタートし、30〜40センチ級の良型主体にトップ5〜7尾前後の好模様。



★アカムツのアタリがきたら、外洋特有のウネリを手持ち竿でかわして慎重に巻き上げよう